WASEDA UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION of JAPAN and TAIWAN

# 日台稲門会 会報 第17号

発行所：日台稲門会事務局
東京都大田区下丸子 2-13-2-714（高橋方）
TEL090（6205）5454
編集委員会
発行人：岩永　康久
編集責任者：齋藤　晃

## 台湾学生による立法院占拠

会長　岩永　康久

本会への日ごろのご協力に対しお礼申し上げます。今回は台湾学生の国会占拠に関し、説明方弊見を述べさせていただきます。

三月十八日学生により立法院（国会）が占拠された。学生が問題にしたのは、ブラックボックスの中で進められる「中台間のサービス貿易協定」、それに対する反対宣言。与党国民党が強引に国会司決させた後の経済発展の行く末を憂慮し、サービス貿易協定の再審査を求めた。

三月二十三日には、強行派の学生の一部が行政院にも突入した。この行政院突入に対しては警察が動員され、翌日二千人の学生が強制排除、三十二人が逮捕された。しかし、立法院の占拠はその後も続いた。立法院の王金平院長は、日ごろ馬英九総統と対立関係にあり、学生の排除にも否定的。二十四日台湾のテレビ局TVBSの世論調査では、学生たちの行動に市民の五十一％が賛成し、サービス貿易協定に対しては六十八％が反対を表明している。

この間、中国国務院は、この状況に対し「両岸の経済協力の進展が妨害されることを誰も望まない」と不快感を示し、陳水扁政権下の冷え込んだ中台関係に戻ると牽制した。

中台統一を主張する団体（中国出身者、及び中国でのビジネス活動の多い企業関係者）など約千五百人が立法院前に集まり、サービス貿易協定に賛成を訴えるとともに、立法院に侵入しようとした。こちらは警官隊に阻止され、学生たちと睨み合いとなった。

三月三十日、学生側は総統府周辺で大抗議集会を開いた。規模は主催者発表で五十万人、警察発表では十一万六千人に上る多数の参加者となった。また、香港でもこのデモに呼応して、学生を支持する市民八百人が市街地でデモ行進を行った。

その後紆余曲折があったが、四月に入り終結に向かった。即ち四月四日、馬総統は、学生らが制定を求めていた中台間で結ぶ協定に対し立法院などの監視機能を定めた法案（両岸協議監督条例）提出を行政院で決定した（サービス貿易協定そのものの撤回は否定）。学生らの要求に対して、一定の譲歩を示したが、学生側はより透明性の高い制度を要求し、さらにサービス貿易協定そのものを見直すよう求めている。

四月六日、立法院の王金平院長は学生側の要求に応じ、「両岸協議監督条例」が法制化されるまで、サービス貿易協定の審議を行わないと表明すると共に、学生側に議場から撤退するよう呼びかけた。この提案を受けて学生側は、「この段階での任務を達成した」として四月十日に立法院から退去した。

以上通り、ほぼ学生たちの要求が通る形で台湾政府・議会との合意に達し、官憲の介入なしに占拠は解散された。退去に当たり学生たちは立法院内部を清掃し、ひまわりをもって整然と退場した（ひまわり運動とも言われる所以）。

小生は、占拠発生時この学生運動の背景には特定の政党が動いているのではと疑いの目で見ていた。しかし、小生の疑いは誤りであった。二〇〇〇年の国民党馬英九政権成立以来、着々と進む中国との関係緊密化、これを象徴するECFA（経済協力枠組み協定　二〇一〇年六月締結）、今年二月に行われた中台主管官庁トップによる南京での公式会談等、台湾は中国への依存度を急速に強めつつあった。

この流れの中で、中台サービス貿易協定締結に当たり、与党国民党が立法院委員会審議を打ち切り、承認を急いだことに対し、危機感を強めた学生の自発的行動であった。「台湾の民主主義、中国からの統一攻勢から台湾を守る」という学生の純粋な思いだったと言える。

小生も三月二十七日に台湾を訪れ、現場に立ち会った。日本にて一九七〇年前後の激しかった学生運動＝全学連時代を経験した私として、無秩序な激しいデモが繰り返されているのではと想定していた。しかし実態は全く違い、秩序ある雰囲気だった。

デモに参加している学生たちは、路上で座り込みながら至る所で十人ほどの輪を作って真剣な討論をしていた。その周りでゴミ袋を持った学生がゴミ拾いをしており、座り込み現場は整然としていた。歩道には、寝泊りの蒲団、携帯の充電サービス、飲み物の無料提供等々、一般市民のヴォランティア協力が多く見られた。

現在の国民党政権下で対日外交の重職にあられた方とも本件を話しあった。当然学生非難の声が出るものと思っていた。ところが彼曰く、「我々大人は中国との緊密化の中で、台湾がどんどん中国に呑み込まれていくことを、惰性的に受け入れるような雰囲気になっていた。今回の学生の動きで、目を覚まされたような気がする。学生たちはこれからの長い人生を真剣に考え決起した

と言える。我々大人への若者の警告でもあった」と。

以上のような経緯だが、現在、立法院の会期が五月末に迫っており、両岸サービス貿易協定や両岸協議監督条例、自由経済モデル区などの重要法案が審議持越しとなる可能性が高まっている。今回の占拠を振り返り、民主台湾の穏やかな国民性を反映して我々も見習うべき推移・解決がなされたと言える。即ち、これまで中国は穏やかな台湾政策をとりながら、その実着々と台湾を呑み込もうとの布石を打ってきた。経済・軍事両面から強大化する中国の攻勢の中で、台湾の中にもあきらめムードが漂っていたが、今回次代を担う学生により、強力な一石が投じられた。今後中台関係は一定の距離を保ちながら慎重に進められることになろうし、それは台湾人の底にある台湾人意識を無視した対応はできないことを中台双方の関係者に知らしめたことになる。また、その思いが世界に発せられ、台湾に対する世界の理解が深まったともいえよう。

以上

## ありがとう台湾！がんばれ東日本！チャリティー演奏会

四月一日、台中・中山堂にて「ありがとう台湾！がんばれ東日本！チャリティー演奏会」が開催されました。

本演奏会は、昨年五月日本で開催された「台湾高座会留日七〇周年歓迎大会」での余剰金を活用し、東日本大震災で世界一の支援をしてくれた台湾に、音楽を通じて感謝を伝えようと企画されたもの。提案を受けた台湾高座会からは、日本をさらに激励したいとの意向があり、日台双方で事務局を立ち上げ昨年末より準備が進められてきました。日本側実行委員長は石川公弘氏（日台稲門会前会長）で、台北稲門会も協力団体として微力ながらお手伝いさせて頂きました。

当日を迎え、十九時の開場前には入場者の大行列ができていました。日本からも観覧ツアーが組まれ、数百人の方がいらしたようでした。

十九時半から始まった演奏会の舞台に最初に立ったのは、南相馬市近郊の中高校生で結成するＭＪＣアンサンブルでした。優秀な成績を収め数々のコンクールへの出場権を得ていた本グループは、震災により離れ離れになりましたが、それぞれが自主練習を重ね目指す大会にて再会を果たしたことで共感を呼び、その後国際的な活動を続けています。あどけない顔をした少年少女の澄み切った歌声が会場に響き渡ったとき、目頭が熱くなりました。心の中にあったものが、少し解き放たれた気がしました。

石川実行委員長とは旧知の仲の、日本が誇るノーベル化学賞受賞者・根岸英一さんが歌声を披露されました。物腰柔らかいご挨拶の後、張りのある歌声が会場を包み込みました。そして、台湾が誇るノーベル化学賞受賞者・李遠哲さんも壇上に上がり、二人一緒に声高らかに歌われました。この光景は、普通はなかなか見ることは出来ません。

演奏会は六組（含個人）のコーラス、演奏の他に、出演者全員での演目もありました。奏者全員による「花は咲く」の大合唱では、観客からも歌声が聞こえました。

三時間にも及ぶ演奏会、ほぼ満員の会場は、あたたかい雰囲気に包まれました。

盛大にこの演奏会を彩られました、奏者、関係者のみなさま、ありがとうございました。

（台北稲門会ホームページより抄録・転載）

祝　早稲田大学校友会日台稲門会
会報第１７号　発刊

中華民国　台北駐日經濟文化代表處

代　表　沈　　斯　　淳

東京都港区白金台５－２０－２
電話　０３（３２８０）７８１１

# 日台二人のノーベル賞受賞者が演奏会でデュエット

石川　公弘

二〇一四年四月一日、台湾の台中市中正堂で開催された「ありがとう台湾・がんばれ東日本慈善演奏会」で最も注目を集めたのは、被災地・南相馬の少女合唱団のコーラスと、日台の誇る二人のノーベル化学賞受賞者によるデュエットだった。

根岸英一博士は、アメリカ行きの日程を延ばし、李遠哲博士は、フランスのパリからわざわざこの大会のために台湾へ戻ってきてくれた。しかし、多忙を極めるお二人の日程がなかなか合わず、デュエットなのに一緒に練習が出来ないでいた。それが一番の気苦労だった。

根岸英一博士を含めた私たち台湾訪問団六十五名一行は、大会前日の三月三十一日に羽田を発ち、午後二時台北の松山空港に着いた。入国審査へ向う私の携帯が、その時突然鳴った。一日早く台湾入りしていた橋本理吉事務局長からのもので、ようやく両博士の日程が調整出来たという。

台北の日本人学校でピアノを借り、そこで両者のレッスンが出来ることになったから、根岸博士とその日本人学校へ直行して欲しいとのことである。指導する古川精一・本大会総合プロデューサーも現地へ向かっているとのことだ。

空港からタクシーで急ぎ指定の日本人学校へ向かった。小学校と中学校が併設されている大きな学校だった。校長室に通された。李登輝元総統も講演に訪れられたということで、立派な額が懸けられていた。

すでに大会の共催相手である李雪峰・台湾高座会会長と、今回のイベントに縦横無尽の活躍をしてくれた、現地のプロデューサー・檀上典子さんが笑顔で迎えてくれた。李遠哲博士が来校されるまでの間、根岸英一博士は日本人学校の先生たちの人気の的で、カメラのフラッシュを間断なく浴びていた。

ほどなく、李遠哲博士が到着された。早稲田大学台湾校友会の陳光敏会長が同行された。この陳光敏会長に昨年六月一日、早稲田の日台稲門会の懇親会で隣り合わせたのが、ノーベル賞両博士によるデュエット構想の始まりだった。

その懇親会の席上、私は陳光敏会長に、台湾高座会留日七〇周年歓迎大会で根岸英一博士がアトラクションで自慢ののどを披露したことを話し、根岸博士が台湾の誇る李遠哲博士の立派な人格を非常に尊敬していることを伝えた。

すると、陳光敏会長がさりげなく、「李遠哲は私の従兄です」と言うではないか。陳会長とは旧知の間柄で、今まで何回もお会いしているが、そんな話は聞いたことがなかった。「自分のことではないから、他人にはあまり話したことがない」という。

そのときの会話が後で両博士のデュエットに発展していくのだが、最初のうちは、全然見込み薄だった。陳光敏会長の話では、李遠哲博士は非常にシャイな人で、人前で歌うなどとても考えられないというのだった。それが大会直前に急転直下、出演が決まった。

初めてお目にかかった李遠哲博士は、前評判どおり全く気取らない、人間の優しさが顔に出ているような人だった。二人を見ていると、ノーベル賞を受賞するには、まず人柄の審査もあるのではないか考えてしまう。李博士が忙しいので、レッスンはすぐに始まった。

演目は、讃美歌四〇五番、「神とともにいまして」、有名な曲だから誰でも知っていると最初言われたが、教会などあまり訪れたことのない私には、当初見当もつかなかった。しかし、二人の博士の大会直前の練習を見学して、曲だけは思い出すことができた。

神とともにいまして　行く手を守り
天（あめ）の御糧（みかて）もて
力を与えませ
また会う日まで　また会う日まで
神の守り　汝（な）が身を離れざれ
荒野を行くときも　嵐吹くときも
行く手を示して
絶えず導きませ
また会う日まで　また会う日まで
神の守り　汝が身を離れざれ

指導の古川精一さんが鈴木睦さんのピアノ演奏に合わせてまず歌い、二人が続いた。問題は李遠哲博士と思いきや、それが何と素晴らしい歌声なのだ。まごまごすると根岸英一博士を凌ぐほど声量がある。聞けば、子供の頃唱歌隊に属していて、昨晩から奥さんの指導で練習してきたと言う。一番心配だった両ノーベル賞受賞者のデュエットは、こうして練習が終わった。私たちは明日の演奏会の成功を確信することができた。

国境を超えた今回のイベントが何とか成功したのは、台湾高座会の存在と台湾における早稲田の校友、特に陳光敏・台湾校友会長の協力のお蔭だった。その協力に心から感謝したい。

台北・日本人学校でレッスン中の古川精一さん、鈴木睦さん、根岸英一博士、李遠哲博士

日本と台湾の懸け橋を目指す

**石川台湾問題研究所**　代表　石川　公弘（昭和３４年商研卒）

〒242-0029　大和市上草柳６－１２－１３
Tel 046-261-1838　Fax 046-208-2012
Yahoo!ブログ － 台湾春秋　発信中
http://blogs.yahoo.co.jp/kim123hiro/MYBLOG/yblog.html

日本李登輝友の会　神奈川県支部長
高座日台交流の会　会長
早大日台稲門会　顧問

## 台湾と早大と私

川村　由紀

私は台湾に行くまでは早大出身であることに何らありがたみを感じておりませんでした。それはまるで当たり前のことであるよう、デメリットもメリットもなく、ただ早大出身という事実があるというだけでした。それが大きく変わったのは、高雄、そして台北での滞在があったからだと思っております。

高雄では語学留学で九ヶ月、台北では大学院留学で二年、台湾にお世話になりました。当然、知らない土地です。友達も知り合いもおらず、一から人間関係を築き上げなければなりません。そこで発見したのが、高雄稲門会でした。そこでは、台湾人ならびに日本人の先輩方に大変かわいがっていただきました。そのこともあって、台北稲門会にも参加するようになりました。どちらの会でも若輩者の私を暖かく受け入れてくださり、また、皆様とても活き活きとされていて、それぞれがそれぞれの形で台湾を愛しているのが伝わりました。

日本でも日台稲門会に参加させていただき、皆様の変わらぬ台湾愛を感じられ、感激しております。ただ、残念なのが、若い会員の方がそれほど多くない点です。台湾留学や台湾駐在など、さまざまな台湾での経験をさらに若い世代に受け継いでいくためにも、より新鮮な経験を共有していただきたいものです。台湾という異国の地で、様々な経験を積んだのです。それを次世代にバトンを渡していくことで、台湾に恩返しが出来るのではないでしょうか？

## 台湾ヒップホップのための テクスト・トラック

三村　達也

からだとこころさえばらばらでまあかにただれたちでつながっているきぶんにはなっているけれど、そもそもたにんの身体と心をどうやってつなぎとめるか、いつも気にしてないと爪は剥がれ皮膚は剥かれ、既に手と足と頭地球のはんたいがわ、それでも気が狂っていない気分にならないのはひとえに人間という生き物のとちくるったところで、目、鼻、脳、手、足、口、心、放射線状に飛んでいく血、不細工とのまぐわいにおける意識、快楽、倦怠、その不細工の現実と理想、バランスなんか存在するのか。

ユクスキュルという動物学者はガチョウをつがいで飼っていた。ある時そのつがいの妻のほうが死に、その日から夫のガチョウはみるみるうちに衰弱していった。ところがある日その夫のガチョウが急に元気になったのを観察すると、鏡の前の自分の姿を妻と思い込みずっとその鏡の前にいる。ナルキッソス、人間動物問わず我々はこれ程までに自分のことなどなにひとつわかっちゃない。我々は自己というものついて決定的に懐疑的だ。脳髄を摺り出して目の前に出さなきゃならないほどに自分のことなんて全くわかっちゃない癖に、他人のことはわかりきった気でいる。電車には隣に座った人間が殺人の衝動を抱えていることなど知らず鼾をかいて寝ているサラリーマン、あまりにも無防備。

蛋堡（Ｓｏｆｔ　ｌｉｐａ）

Ｓｏｆｔ Ｌｉｐａ というラッパーがいる（ディスクリプションはいまさら、インターネットでもどこでも見れるだろう、なんで書かなきゃならんのか）。「我們都有問題」とうたうとき、「我們」とは、自分がみんなをわかってるという意味ではなく自らの問題が表面的でないが故にそれぞれの人間の表象に現れない個個体体としての「我」の集合体なのだ。

星の友情、なんていまさら言えるわけもない。台湾のジャジー・ヒップホップなんてものにその切断を委ねてみる。タルコフスキーを気取って、鏡を見つめながらそこにうつったものがはたして自分かどうかばあばあ叫び続ける。

## 変わらずお元気で ユーモア溢れる蔡昆燦先生と台北で再会しました

川村　順一

そもそも台湾に行こうと思ったのは、一月の末に蔡先生から私の自宅にお電話を頂いたことがきっかけでした。

受話器を耳に当てた時は、一瞬知らないお年寄りからの違え電話かと思ったのですが、「順一さんですか？」のお声で蔡先生と分かりました。父の様子を気にされてお電話をして下さったようでした。「父は、もう九十二歳になりました。老衰で身体は殆ど動かせないため千葉の病院で介護を受けておりますが、意識はまだしっかりしています」とお伝えしました。

実は、昨年、従兄弟が、祖父川村秀徳が戦前校長を務めていた台中の清水公学校を訪れました。祖父の執務室や当時の写真などがまだ大切に保存されていることを聞き、一度、清水公学校を訪ねてみたいと思っていた矢先のお電話でした。蔡先生は、祖父の教え子で、祖父が昭和十年に著した『綜合教育読本』を二〇〇七年に復刻して下さいました。

蔡先生からお電話を頂いたことがきっかけで、三月中に台湾に行くことを決心しました。三月二十五日から二十八日がちょうど予定が入っていないため、末の娘を連れて台湾を訪れました。

わたしの両親は台湾生まれです。父は台中で、母は台南で生まれ育ちました。もともと川村家は鹿児島県の出身ですが、

祖父は鹿児島師範を出て台湾で教員生活を送りました。

蔡先生とのご縁のきっかけは、司馬遼太郎先生の『街道をゆく』シリーズの『台湾紀行』が週刊朝日に連載されましたが、当時の週刊朝日の編集長はわたしの親戚の者でした。小説の取材で、親戚の者が司馬遼太郎先生と蔡先生にお会いした時に、蔡先生の口から祖父のことが語られたことがきっかけで、終戦後五十年近くも経て、蔡先生はわたしの父と再会しました。これがご縁になったのかは分かりませんが、父はその後、台中会の会長などもして台湾と日本の交流に尽くしておりました。

この度、蔡先生と奥様にお会いしたのは、三月二十六日、場所は台北の兄弟大飯店です。末娘と台湾の友人も参加させて頂きました。宴席には、産経新聞社が主催する書道や作文のコンクールで入賞した日本の高校生や大学生たちが蔡先生に招かれていました。蔡先生は、わたしを紹介して下さるとともに、戦前、日本はどれほど素晴らしい教育を台湾人に施したのかを、祖父のことを例にお話して下さいました。食事は、蔡先生がいろいろ注文されていましたが、台湾人の友人の話しでは、台湾本来の味付けの料理で、今はなかなか味わえないとのことでした。

蔡先生はご高齢ながらお元気で、宴席で若い学生相手にユーモア溢れたお話をされておられ、とても嬉しく思いました。

この度の蔡先生の旭日双光章の受賞は心から喜ばしいことです。蔡先生は、単なる親日の台湾人ということだけでなく、我々日本人が、ともすると失いそうな日本人としての自信を改めて思い出させて下さる方です。

蔡焜燦先生、おめでとうございます。そしていつまでもご健康でおられることを心からお祈り申し上げます。

・・・・・・・・・・・・・・・

余談ですが、

結局、清水公学校には行けませんでした。そのため、空いた時間で、台湾の学生たちが座り込みをする立法院に娘をつれて行って来ました。

そこで学生たちとも話しましたが、日本から応援に来たことを大変喜んでくれていました。

わたしの知人は大学の教員ですが、その後学生を連れて立法院での抗議活動に参加したそうです。

兄弟ホテルにて

この原稿を書き会報の編集担当の方にお送りした直ぐ後に、母から連絡がありました。蔡先生が父に宛てた手紙が出て来たとのことでした。

母宅に行き、内容を確認しましたら、一九九三年当時台湾で撮影された蔡先生と司馬先生などが写った写真が同封されていました。

蔡焜燦氏　司馬夫人　司馬遼太郎氏　陳舜臣氏　陳夫人　蔡夫人

## 第十七期定期総会・記念講演・交流の集い 開催報告

梅雨入り宣言がなされた直後の平成二十五年年六月一日（土）十五時から大隈記念タワー地下多目的ホールにて、日台稲門会第十七期定期総会が会員二十九名、会友五名参加のもと開催された。

議案としては

・二〇一二年度事業報告・決算報告並びに監査報告。

・二〇一三年度事業計画案、予算案。

いずれも原案通り承認された。続いて、

・会則変更 ― 副幹事長職を新設、また、学生会員・会友に対する年会費の優遇措置を新たに会則に盛り込むことが承認された。

・会長、監査役の選出においては、現会長の岩永康久氏が人格・知識・人脈で余人をもって代え難し、の理由で再選。現監査役の眞鍋藤正氏も再選された。

・新役員紹介を行い、第十七期定期総会は無事終了した。

その後、来賓でお越し頂いた、早稲田大学国際部事務部長・足立心一氏による早稲田大学と台湾との最近の取り組み、早稲田大学台北事務所の新人事、鎌田総長の新ビジョン、中野の新学生寮の紹介が行われた。

第二部として、十六時より財団法人交流協会顧問・池田維氏による「日・中・台関係と今後の展望」と題し記念講演が行われた。尖閣問題から中台関係・日台関係に触れられ現下非常にホットな問題に関し元外交官の目から歴史的分析から始め、今後の関係各国のあり方まで深部にわたり、貴重な講演であった。この記念講演には大隈記念タワー地下多目的ホールが満席となる九〇名が参加、台北駐日経済文化代表処羅坤燦副代表、林世英組長、早稲田大学台湾校友会・陳光敏会長始め会員・会友はもとより現役学生も多数参加した。講演終了後の質疑応答では時間を延長して老若男女、日本人・台湾人の方々が、今後の日中・日台の関係に関し熱い質問がなされた。

第三部として、十八時より大隈記念タワー十五階「西北の風」にて日台交流の集いが行われた。

池田維氏の挨拶では台湾で玉山に登った経験を話されると、羅坤燦副代表は富士山に登った話を披露された。乾杯の音頭は陳光敏会長より毎年日本に来て日台稲門会総会に参加するのは、古い友人に会うことと台湾からの留学生に会うためで、楽しみにしているとご挨拶あった。

この会には、会員会友のみならず、早稲田大学台湾留学生会、日台関係のゼミ、日台学生会議に所属する学生も多数参加し大盛会であった。後半には新入会員紹介、会友・酒井充子氏（「台湾物語」のドキュメンター映画監督）の新しいドキュメンタリー映画「台湾アイデンティティー」の紹介が行われ、最後は、行政書士稲門会・山下政行会長のエールによる校歌斉唱で、二〇時閉会となった。

日台稲門会として、現在の良好な日台関係を維持・拡大して行くため少しでも多くの日本人の若い方に台湾の良さを知ってもらい、一方で、台湾の若い方に日本を好きになって頂けるよう微力ながら尽力して行きたいと考えております。（幹事長・高橋　徹　記）

日台交流の集いも終り、名残惜しい面々で恒例の記念撮影

# 日本語教育と進学指導の JET

●大学院進学コース　●大学進学コース
●日本語コース　●短期コース

## 学校法人 JET 日本語学校

名誉理事長 金　美齢（昭和46年文研博士単位終了 元早大講師）
理 事 長　越野 充博（昭和57年商学部卒）
校　　長　井上 靖夫（昭和60年一文卒 早大大学院講師）
東京都北区滝野川7-8-9 TEL.03-3916-2101
Email: info@jet.ac.jp　Homepage: http://jet.ac.jp/

第十七期定期総会　記念講演：

## 日・中・台関係と今後の展望

元交流協会・台北事務所代表
池田　維　氏

今日は早稲田大学で講演の機会を得ましたが、早稲田と台湾の関係は大きく深いのです。

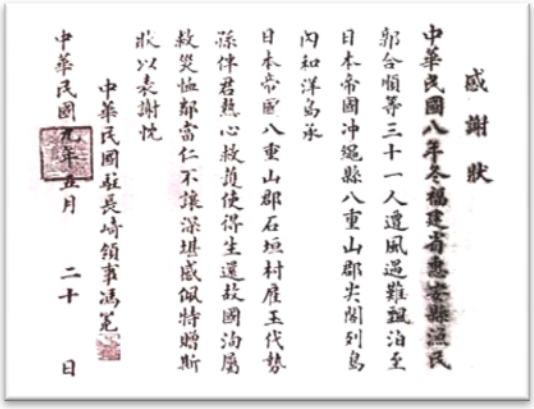
先ずは尖閣領有問題からお話しします。尖閣について、日本、中国、台湾（中華民国）はどう主張しているのでしょうか。

日本は、一八九五年一月以降、法的、歴史的に有効に支配しているとしています。日清戦争とは関係なく、無主無人の島だったのです。清の北洋艦隊は定遠、鎮遠などを擁し当時無敵といわれましたが、黄海海戦、威海衛海戦で壊滅しました。

中国、台湾（中華民国）の異議申し立ては一九七一年以降のことであり、ECAFEの報告がきっかけです。

※「東シナ海海底の地質構造と海水に見られるある種の特徴に就いて」の中の「台湾と日本との間の浅海底は、世界的な産油地域となるであろうと期待される」との評価

日本は一〇年にわたる調査のあと「先占」したものであり、終始、日本の有効支配下にあり、日本の居住もありました。当時の中華民国もそれを認めており、例えば一九二〇年、中華民国駐長崎領事は尖閣列島に漂流した自国漁民の救助に対し「感謝状」を発行しています。


感謝狀

中華民國八年冬福建省惠安縣漁民郭合順等三十一人遭風遇難飄泊至日本帝國沖繩縣八重山郡尖閣列島內和洋島承日本帝國八重山郡石垣村雇玉代勢孫伴君熱心救護使得生還救國泊屬救災恤鄰當仁不讓深堪感佩特贈斯狀以表謝忱

中華民國駐長崎領事馮冕

中華民國八年五月二十日

米国施政占領下（一九四五―七二）においても日本の領土として占領され、その後返還されました。

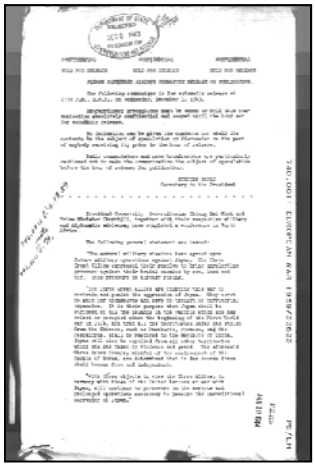
また「棚上げ論」には根拠がなく、田中―周恩来会談、福田―鄧小平会談においても「合意なし」です。一九九二年に中国が国内法である「中華人民共和国の領海及び隣接区域法」を制定したことから、「棚上げ論」を自ら放棄したかたちとなりました。

※光華寮問題とは違う？

※第二条第二項　中華人民共和国の陸地領土には、中華人民共和国の大陸及びその沿岸の島嶼、台湾及び釣魚島を含むその附属諸島、澎湖諸島、東沙群島、西沙群島、中沙群島、南沙群島その他のすべての中華人民共和国に属する島嶼が含まれる。

※一九九八年　「専管経済区及び大陸棚法」制定（国内法）

中国はどう主張しているかというと、先ほども申し上げましたように一九七一年以降のことであり、「古代以来」「明朝・清朝の古文書のなかに記述」という朝貢・冊封時代の地理的概念です。また「戦争で盗取」と日清戦争という歴史と結び付けてもいます。根拠は「カイロ宣言」ですが、これには日付・署名がなく無効とされています。



では台湾の主張どうでしょう。台湾も中国と共通し、「明朝・清朝の古文書のなかに記述」などを論拠にあげ、沖縄も含めています。

尖閣をめぐる中国・台湾の対応の相違ですが、中国は台湾との「連繋」をよびかけていますが、台湾は中国と「連繋せず」の声明を本年二月に出しました。

台湾との間の日台漁業交渉が十数年ぶりに妥結し、本年四月取り決めに調印・発効しました。北緯二十七度線以南に「法令適用除外区域、特別協力水域」を設定するもので、中国と台湾を連携させないという政策です。これは台湾漁民の利益ともなります。

次に中台関係についてお話します。

馬政権の対中政策は「不統、不独、不武」の現状維持策ですが、その中での対中国接近政策を進めています。ECFA締結、観光客往来、人的往来の増加などが上げられますが、今後中国との政治関係（「和平協定」など）が進むかは疑問。中台間の軍事的緊張関係は変わらないでしょう。基本的には全方位型ですが、優先順位が必要です。

※米国国内法・台湾関係法により安全保障は担保？

台湾人の統一、独立、現状維持の場合の各問題に対し、現状維持志向は変わりません（八十五％）。習近平の「中華夢」（中華民族の偉大な復興）により中国に「呑みこまれる」ことはあるのでしょうか。

台湾の法的地位に関する日本・米国の立場は、中国の主張を法的に承認せず、です。

※日本：（中華人民共和国が中国唯一の合法的政府と）recognize し（中華人民共和国の立場を）understand and respect するが、仲良くする

※米国：recognize し acknowledge するが台湾関係法で対応

それでは日台関係はどうでしょう。日本と台湾の関係は外交関係がないにもかかわらず、良好かつ緊密です。三・一一に対する義捐金は、一国としては最大規模でした。

1）漁業交渉、青年交流、台湾における日本研究支援

2）日本に対する強い親近感

3）民主主義、人権の基本的価値の共有

これらが良好な関係を形成しています。

日中関係と日本の取るべき措置ですが、中国とは「戦略的互恵関係」にあり、要するに利益の追求です。それが尖閣をめぐって停滞し、国際協調ラインか覇権主義かという状況、これは中国の国粋主義と中華思想によるものです。

日本はやはり、集団的自衛権を含む日米関係の強化を図るべきでしょう。東シナ海、南シナ海における「第一列島線」を内海にしようとの中国の動きを阻止する必要があります。

米国の戦略重心は「アジア回帰」（"Rebalance"）に変化しつつあると思います。

南西諸島の防衛

日本に必要なのは対外広報を強化し、世論戦に負けないことです。（了）

略歴：いけだ・ただし　昭和十四（一九三九）年三月、兵庫県生まれ。東大法学部卒業後、外務省入省。アジア局中国課長、米国大使館参事官、カナダ大使館公使、タイ大使館公使、アジア局長、官房長等を歴任。オランダ駐箚特命全権大使、ブラジル駐箚特命全権大使を経て外務省退官。二〇〇五年五月に交流協会台北事務所代表（駐台湾大使に相当）に就任。天皇誕生日祝賀会や叙勲を続け、台湾人観光客のノービザや運転免許証の相互承認の実現などに尽力。尖閣諸島沖での台湾遊漁船と海保巡視船の衝突沈没事故では台湾政府と交渉して事態を収拾。二〇〇八年七月に離任。（財）交流協会顧問。著書に『日本・台湾・中国―築けるか新たな構図』など。

日台中関係について、分かり易く説明される池田・元代表

**瑞宝重光章に池田維・元交流協会台北事務所代表**

平成二十六年四月二十九日春の叙勲が発表され、池田維氏に瑞宝重光章が贈られました。日台稲門会一同、謹んで心よりお祝いを申し上げます。

## 春の叙勲、台湾から４人受章

日本政府による平成２６年４月２９日付発表の２０１４年春の叙勲受章者の外国人叙勲のうち、台湾からは次の方々４名が受章されました。

○**廖 一久**さん（７７）　中央研究院院士　旭日中綬章

○**呉 金璞**さん（９０）　元・国際剣道連盟副会長　旭日小綬章

○**蔡 焜燦**さん（８７）　台湾歌壇代表　旭日双光章

○**鄭 正秀**さん（７０）　兵庫県肢体不自由児協会理事長（在日外国人）　旭日双光章

## 秋の叙勲、台湾から３人受章

日本政府による平成２５年１１月３日付発表の２０１３年秋の叙勲受章者の外国人叙勲のうち、台湾からは次の方々３名が受章されました。

○**許 文龍**さん（８５）　（財）奇美文化基金会会長、（財）奇美医院理事長　旭日中綬章

○**黄 福慶**さん（７９）　中央研究院近代史研究所兼任研究員　旭日中綬章

○**林 明徳**さん（８１）　中央研究院近代史研究所兼任研究員　旭日中綬章

PRONTO
CAFFÈ & BAR 1988

美味しいパスタとコーヒーで、皆様のお越しをお待ちしております！

<プロント　越谷レイクタウン店>
〒343-0826 埼玉県越谷市東町4－21－1 イオンレイクタウンKAZE C201
TEL:048-934-3201 最寄り駅:越谷レイクタウン駅
営業時間:平日、土、日、祝日 カフェ 9:00～17:00 バー 17:00～23:00 定休日:無休

<プロント　大手町カンファレンスセンター店>
〒100-0004 東京都千代田区大手町1－3－2 大手町カンファレンスセンターB1F
TEL:03-6212-0036 最寄り駅:大手町駅
営業時間:平日カフェ 7:00～17:00 バー 17:00～23:00 土カフェ 8:00～17:00 定休日:日祝

<プロント　カレッタ汐留店>
〒105-0021 東京都港区東新橋1－8－2 カレッタ汐留B2F
TEL:03-5537-2344 最寄り駅:汐留駅 新橋駅
営業時間:平日カフェ 7:00～17:30 バー 17:30～23:00 土カフェ 10:00～17:30
バー 17:30～22:00 日、祝日カフェ 10:00～18:00 定休日:不定休

秋季講演会：
# 台湾最新事情
自由時報・東京支局長
張　茂森　氏

平成二十五　年度　秋季講演会
日時：十一月九日（土）　午後二時より
講演会場：二十二号館五〇二教室
講師：張　茂森氏（自由時報・東京支局長）
演題：「台湾最新事情」

今回は、台湾で最大の発行部数を誇る自由時報・東京支局長の張茂森氏を講師にお招きし、「台湾最新事情」という題目でご講演を戴きました。張氏は、「中国時報」、「台湾日報」を経て、現在「自由時報」東京支局長。日本の新聞・雑誌にも論文を発表し、日台関係に詳しいことで知られております。講演では、台湾の現状と東日本大震災後の日台関係について、お話しされました。

『現在台湾政治史上最大の闘争が馬英九総統と王金平立法院長の間で繰り広げられている。このため社会エネルギーが消耗され、その代価が過大となっている。最近発覚した「食用油事件」なども その例である。余りにも政治的な闘争に傾注したため、こうした大きな問題が、長い間見過ごされていたのではないかと言われている。

台湾人の大多数は、現状維持を願っているが、最近の台湾は経済的に中国に依存しすぎている。このことは、大変危険なことであり、日本にも大きな影響をもたらす。仮に台湾が中国と統一されたら、尖閣諸島どころの騒ぎではなくなる可能性がある。台湾はアジアで最も日本に友好的な国であり、日本は台湾を取り込む施策を考える必要がある。東日本大震災に際し台湾からは二百億円を超える義援金が寄せられたが、台湾の人は日本人に対する恩返しと考えている。両国民がお互いに思いやっていることの証明である。震災以降両国民の相互の国への訪問者数は激増している。今後ともお互いの国を思いやることが大事である。』

熱弁を奮う張氏と熱心に聞き入る聴衆

講演には、会員・会友二十四名、一般十八名、学生二十七名の計六十九名の方が参加されました。

講演会に引き続き、キャンパス内の別会場にて、参加者相互の親睦を図る懇親会が催され、会員・会友二十二名（学生会員一名含む。）をはじめ、日本・台湾の学生二十七名、一般六名の計五十五名が参加されました。

会は、早大に留学している台湾の学生団体WTSA（早稲田大学台湾同学会）の謝会長が司会を務め、岩永会長の挨拶に引き続き、交流協会の小松部長が挨拶され、日台交流に日台稲門会が長く活動を続けていることを多とするというお話を戴きました。

老いも若きも一つになって　ワセダ！　ワセダ！

また本日の講演者である張氏による乾杯の音頭で開宴となりました。

あちらこちらに日台の学生を囲んで懇談する小さな輪がいくつも出来、宴もたけなわとなったところで、本日参加した各学生団体、即ちWTSA、日台学生フォーラム、岩永ゼミの各メンバーが自己紹介を行い、盛んな拍手を受けていました。

高橋幹事長の中締めを経て閉会が宣言されましたが、いつまでも談笑したり、記念の写真を撮ったりと中々退場しないのは、もはやこの会の恒例となった感でした。（担当幹事・北川原宣夫　記）

略歴：ちょう・もりん　一九四八年台湾嘉義県生まれ、七二年台湾師範大学社会教育新聞学科卒業、「中国時報」政治部記者を経て七九年京都大学に入学し比較社会教育専攻、主な研究テーマはマスコミ関係。八二年に「台湾日報」東京支局長、九六年台湾の最大手新聞社「自由時報」東京支局長、現在にいたる。日本の新聞・雑誌にも論文を発表、日台関係に詳しい。
主な著書：「台湾二千万人の選択」（面影出版社）、「逆襲ドラゴン―台湾の戦略」（DHC出版事業部）など多数。

## 春季講演会：
## Story of My Life ―
## ブランドに魅せられた男の物語
萩谷　博氏

平成二十六年度　春季講演会
日時：四月五日（土）　午後三時より
講演会場：国際会議場三階第一会議室
講師：萩谷 博氏
演題：「Story of My Life ― ブランドに魅せられた男の物語」

本年最初の行事として春季講演会を開催いたしました。今回は、早稲田大学国際会議場に於いて、台湾駐在の日本人起業家として大きな成功を収めた萩谷博氏を講師としてお招きし、台湾からの留学生など学生三〇名を含み八〇名の参加を得て行われました。

会社を興し、厳しい企業競争の中から商品を開発し、ブランドを創設してグローバルな会社へと事業を拡大していった萩谷氏の半生のお話は、聴衆を魅了し、1時間半の講演予定を大幅に超えたにも関わらず、時間は瞬く間に経過していきました。参加された方々には、終了予定時刻の関係で質問時間をあまり取れなかったことをお詫びいたします。

講演内容の詳細は、萩谷氏の講演原稿を氏の了解のもと添付資料として当会ホームページに掲載いたしました。是非、御一読下さい。また、当会ホームページから問合せをクリックいただければ、講演内容の質問等をお受けいたします。

☆日台稲門会ホームページURL
http://nittai-toumonkai.com/

ズバリ！　ブランド力とは何か？　を語る萩谷氏

講演会終了後行われた懇親会には、萩谷氏にも参加いただき、会員・会友、学生との楽しい交流の夕べとなりました。

高橋幹事長の開宴挨拶、御来賓の財団法人交流協会の長田総務部副長、早稲田大学の岡本渉外局長による挨拶に続き萩谷氏の乾杯のご発声により始まった懇親会は、すぐに世代を超えた歓談の輪が幾つもできて大いに盛り上がりました。初めて参加された方々からは、「日台関係を大切に考えている方が大勢いるということを改めて実感した」といった声も聞かれました。

恒例になった雄弁会出身の山崎幹事音頭による校歌斉唱の後、三村副幹事長が中締めを行いましたが、その後も暫く歓談は続き、夜桜見物に繰り出す学生さんも見られました。（担当幹事　萩原記）

現役も校友も一つに渦巻く日台稲門会

略歴・はぎや　ひろし　萩一九六三（昭和三十八）年　早稲田大学第一商学部卒業。七〇年に機械商社ユアサ商事の駐在員として台北に赴任。七四年に台湾で独立し、機械及び配管資材のアメリカ向け輸出を始める。九三年　自社ブランド SHUROINT（パイプとパイプをつなぐ継ぎ手）を立ち上げ受託生産と対米依存体質からの脱皮を目指す。Shur joint Products Inc. の社名で、商品と市場の多角化に乗り出す。その後、中国昆山に工場を設立し、〇四年にはアメリカの現地企業を買収し、ラスベガスとアトランタに拠点倉庫を設ける。〇五年　韓国ソウル、〇六年台北に販売会社を設立し直販体制を広げる。この他、日本、カナダ、欧州、中東、豪州、ブラジルにも販路が広がり念願だった自社ブランドによる企業のグローバル化を果たす。〇九年 Tyco International 社から買いオファーが入り、一二年グループ企業の一括売却に成功。一三年には、台湾で長い歴史を誇る日本語情報誌「台湾ダイジェスト」誌及び『なーるほど・ザ・台湾』誌を買収、今日に至る。

特許取得数［アメリカ、日本、台湾、中国など］

一九九一――二〇〇一　台北稲門会会長
一九九九――二〇〇〇　台北西南ロータリークラブ会長
二〇一一――一二　台北南山ロータリークラブ創立会長

## 二〇一三年度 台湾校友会総会に参加して

二〇一三年十二月十四日に台湾校友会の総会が新光人壽ビルにて開催され参加してきました。

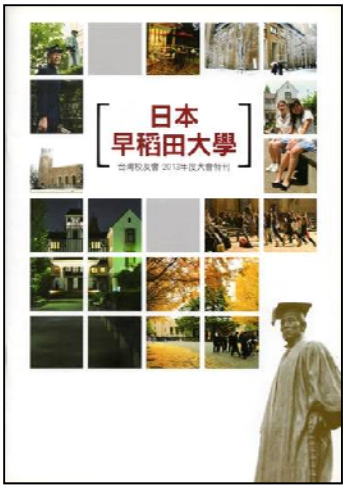
鎌田総長も日本より参加され、陳光敏会長始め歴代の台湾校友会会長（謝南強最高顧問、董烱朗名誉会長）も元気に参加されていました。他にも許世楷元駐日代表も台中より参加され、総勢百五十名程の盛大な総会でした。また、日本からの参加者も四〇名ほどと多く、その中で日台稲門会会長の挨拶は海外稲門会の中でトップに設定されており、双方が日台相互理解・友好という目的を共有して、近い関係になった現状を嬉しく思いました。

昨年の日台稲門会総会にも、陳光敏会長がわざわざ来日いただきました。ちょうど開催日が六月一日にて、台湾における早慶ゴルフ戦の開催日と重なってしまい、ご迷惑をかけましたが、無理を押して参加いただいた事にありがたく、頭が下がりました。

台湾校友会総会前日の十三日は、台北稲門会主催の前夜祭を催していただき、驥園川菜餐廳にて四川料理を楽しませていただきました。山田会長、長田幹事長のご配慮に感謝です。また、台北稲門会元会長で台湾での起業における大成功者と言われる萩谷様も参加されており、日台稲門会春季講演会でのご講演を依頼し、ご快諾を得ました。（文責・岩永）

鎌田・早稲田大学総長

岩永・日台稲門会長



**鈴木歯科クリニック**
Suzuki Dental Clinic

東京都豊島区池袋4-25-1
紘亜ビル1F　〒171-0014

Phone　03-5950-8241
Fax　03-5950-8242

歯科医師／歯学博士
**鈴　木　章　敬**
Akiyoshi Suzuki,D,D,S.,Ph.d.

タバコ　肥満は歯周病リスクを高めます

適切な口腔ケア（歯ブラシ・舌ブラシなど）で歯周病は予防できます！
更に、カゼ、インフルエンザの予防になります！

よく噛んで！　歯周病予防と肥満予防！

口腔ケアで高齢要介護者の
誤嚥性肺炎を予防しましょう！

日台稲門会は早稲田を代表する台湾友好団体ですが、慶應義塾にも同様に三台会があります。台湾での早慶の誼を日本でも引き続き大事にしており、先日も慶應義塾の牙城三田校舎で両会有志による交流会が催されました。

招待校の三台会・和田会長（日台稲門会・会友）より、当日のご報告を頂きましたので、以下掲載させて頂きます。（なお文中「慶早」とあるは、慶應義塾の習いによります。）

## 三台会　第四回慶早交流会報告

三台会会長・和田　滋

首記の交流会は、慶應側（三台会）十二名、早稲田側（日台稲門会）九名の合計二十一名の方のご参加を得ました。当日の模様をご報告します。

慶早交流会は、年二回（春と秋）に早稲田（日台稲門会）と慶應（三台会）が交互に幹事校となり行っています。

今回は第四回目で三台会が幹事の為、三田キャンパスを中心にご案内しました。

交流会は気楽な会ですので、ぜひご参加ください。次回は秋の開催です。

日時：四月十八日（金）曇時々小雨　午後四時開始～

第一部　三田・綱町球場／旧図書館、演説館、学徒出陣の記念の平和来の像など等三田キャンパス見学。

小雨の中、池井先生（慶應義塾名誉教授）自らご案内ご説明いただき皆恐縮していました。

三田の校舎から近くの綱町球場は最初の早慶戦（明三十六年）が行われた場所で現在、記念碑があります。

第二部　池井先生の講演（於：萬来舎）

「早慶校歌応援歌ものがたり―都の西北、若き血、紺碧の空、我ぞ覇者」

早慶戦第一回戦一九〇三年は、ご存知のとおり、綱町球場で行われ慶應の勝利でした。

その後、応援が加熱し過ぎ一九〇六年から、十九年間早慶戦がなかったとの由。

早慶戦復活以降、早稲田は、校歌「都の西北」で勝利しました。それから応援歌の歴史が始まります。

それに対し、慶應は、応援歌「若き血」を作り応酬し勝利しました。その後、早稲田は「紺碧の空」で応酬。

更に、慶應は「我ぞ覇者」で応酬。その「紺碧の空」と「我ぞ覇者」の作曲者が同じ古関裕而があったことなど興味あふれるお話でした。

すばらしい応援歌を持った両校であることを再確認させて頂いた講演でした。

第三部懇親会（於：萬来舎）

日台稲門会を代表して岩永康久会長から台北出張時に遭遇した、最近の台北の学生による国会占拠事件の現場での見聞につきご披露があった。引き続き、自己紹介と会食懇談と楽しい一時を過ごしました。（尚、萬来舎では、歌唱は禁止でした）

続編　田町「つるのや」（酒処）で二次会

懇親会終了後、早慶の有志（殆ど全員）で、塾生ご用達の「つるのや」に参集。ここで「都の西北」と「若き血」で両校エールの交換をしました。当店は田所君（H八・経）の懇意のお店。

永い歴史のある早慶両校の絆を一層強く感じた一日でありました。

雨の中、熱心に説明される池井名誉教授

会友寄稿

## 早慶は実の兄弟

三台会　飯沼　昭治

稲門会の皆様とお付き合いを始めて十数年になる。台湾駐在時に入会した台湾三田会を通して台北稲門会の皆様を知り、以後大いに親交を深めている。台湾では新年会（新春会）は稲門会と三田会の合同開催であったし、新春会だけでなく春秋には早慶のゴルフ対抗戦で火花を散らした。　時は移り台湾三田会に所属していた私達（殆どが企業の駐在員）は日本に戻り六年前に「三台会」（三田台湾会）を結成した。結成と同時に日台稲門会の皆様からお声を掛けていただき日本に於ける第一回早慶ゴルフ対抗戦が始まった。今年九回目を迎える。

現在、日台稲門会と三台会は定期的に交流会（親睦会）を行っている。今年の四月、この交流会で、明治三十六年（一九〇三年）秋、最初の早慶戦が行われたという「三田綱町グラウンド」を見学した。折角、稲門会の皆様が三田に来られるのであればこの地を是非見ていただきたい。と三台会の顧問をお願いしている池井名誉教授（慶大）のご提案があり先生自らご案内いただいた。（このグラウンドは三田の慶応大学のほど近くにある。）第一回の早慶戦から数えて百年以上過ぎたが、早慶戦はいつも早慶両校に歓喜の涙か悔し涙を流させながら歴史のページを書き残してくれた。

大東亜戦争で六大学野球に中止命令が出された昭和十八年、その秋の十月、早稲田の戸塚球場で行われた「最後の早慶戦」（出陣学徒壮行早慶戦）は悲しくも有名な話である。一〇対一で早稲田が勝った。ゲームセットの後、慶応側応援席からなんと「都の西北」が聞こえてきた。一方の早稲田側は「若き血」の大合唱で

応え、最後は両校学生の歌う「海ゆかば」となり早稲田の杜にこだましたという。あまりに切ない話である。

戦後、小泉信三塾長の碑文「丘の上の平和なる日々に征きて還らぬ人々を思ふ」（平和来の像）は今、三田の慶応大学の庭園内にあり今回の交流会で日台稲門会の皆様にも見ていただいた。今年は戦後六十九年になる。この様な歴史の中で私達は早稲田、慶応の血を受け継ぎながら生きてきた。永遠のライバル早稲田は、我々慶応の実の兄弟に思えてならない。

会友寄稿

## 不思議なご縁

台湾三井物産元董事長　小川　隆（三台会）

三田会の自分が「稲門会」の会員になる。ちょっと違和感のあるお話でしたが、三台会（台湾三田会・東京版）の飯沼元会長からのお誘いでもあり、旧知の岩永さんのお顔も思い浮かびお受けすることにしました。早稲田と慶應、兎に角不思議なご縁であります。勉強はどちらの方が出来るのか、詳しくは知りませんが、事スポーツに限って云えば全く互角。良きライバル関係にあります。

早稲田の皆さんは我々をどう思っているのか、それは計り知りませんが、少なくとも我々慶應側は早稲田の皆さんに何と云うか「信頼感」を持っているのです。そして、これが良きライバル関係の出発点です。決して嘘をつかない、約束を守る、いつも相手の立場に立って考える等、このような本物の友情関係はかけがいのないもの。これを僕は早稲田の皆さんに期待しているのです。話は段々、新入社員の心得みたいに大袈裟になってきましたが、こんな事も率直に云える間柄、それが早慶です。

しかし人間関係、余り深くなるとこれも考えもの。この距離感を考えると、やはり早稲田は熱く、慶應はクールかもしれませんが、それは飽くまで一般論。人生劇場に涙する慶應生も沢山いますし、むしろ泣かない人は少ないんじゃないのかなぁー、そんな気もするのです。

それからおしゃれ感。昔はスマートな慶應と野暮ったい早稲田（失礼！）が通り相場でしたが、今は世の中平準化が進み、両校の学生を比べてみても、どちらがどちらなのか較べものがつかない。世の中、難しくなってきましたし、これはこれで結構な事です。

そういう意味で、今般、慶應の僕が日台稲門会に入れさせて頂くというのも、これは一種の平準化、世の中の動きに沿った出来事なんだと、今更、この拙文を書き進める内に思い当りました。これを英語で言えば、Fool is wise after the event! 日本語では、「馬鹿は死なきゃ治らない」のようです。どうやら、お後が宜しいようで…

齋藤　晃
田所　勝彦　小川　隆
町田　健司　圓本　武喜
高木　洋
飯沼　昭治　岩永康久　池井　優
新井　孝夫
高橋　徹　和田　滋
北川原宣夫
山崎　聡　橋本　愛
渡邊　義典　小山　信雄　三村　達
金光　恭典　柯　王徳
神田　正治

（敬称略）

# 台湾　大蒼の　戴榮傑さんの思い出

三台会会長・和田　滋

二〇〇一年六月 台湾台北市の東レ現地企業「東馨」に着任しました。

戴榮傑 董事長「大蒼企業」樹脂製品を取扱っている中型企業トレーダーと出会いました。彼一人が全て決定するワンマン経営の典型的な台湾企業でした。彼は、大柄でがっちりとした体躯でありながら、人懐っこい笑顔が印象的な人でした。

当社のＡＢＳ樹脂製品などを「鴻海」のＦｏｘｃｏｎｎ「富士康」中国工場向けに販売して頂いていました。一方、当社は直商内も行っており、売掛金回収にてこずっていました。

その解決に、自分のことのように心配頂き、現地まで同行頂くなど援助を受け、回収することが出来ました。それから非常に親しくお付き合いが始まりました。

「酒場在台北」

彼は、南部の人で、本拠地を高雄に置いていましたが、当時は、台北まで頻繁に飛行機で来てくれました。客をもてなすのが大変上手で、人付き合いが良く、林森北路では屋台の台湾料理とカラオケクラブで深夜早朝までお付き合い頂きました。

「食在高雄」

我々が、高雄に行けば、澎湖海鮮料理「海天下」での会食のご招待を受けました。

伊勢海老の刺身、塩で味付けした新鮮な蟹、蝦蛄、など。所謂、油っぽい中華料理とは違って、日本人好みの素材の味を楽しむことが出来ました。

最近では、海胆山薬（山芋と雲丹）が評判になっている由。

翌日はゴルフ。早朝、ゴルフ場まで行く途上、いつも彼の大好物の屋台の欧巴桑（おばさん）手作りの「飯糰（ファントゥアン）台湾おにぎり」を食べたものです。見た目と違い、前夜のお酒が残った胃にも、優しく、食欲が回復したものでした。

「好打球在高雄」

彼のメンバーコースである「南一ＣＣ」でのゴルフを一緒にプレーをしました。

彼は、帝王学として、小さい時からゴルフレッスンを受け、仕込まれ、相当な腕前でした。台北で開催される早慶戦ゴルフ対抗戦に参加するように何度となく、お誘いしましたが、業務繁忙で叶いませんでした。

台北と気候が違い、南国の広々とした青空の下で、プレーを存分に楽しませて頂きました。

「紅眼酒在高雄」

プレーを終えた後の飲み物は、彼お勧めのビールをトマトジュースで割ったカクテル、Ｒｅｄ　Ｅｙｅ，でした。南国の気候にピッタリでした。

「生意在中国」

その後、二〇〇四年、私はシンガポールに転勤しましたが、お付き合いは続きました。

当時、中国にトヨタ、本田などが進出し、自動車の需要拡大が見込まれると即断即決で、蘇州と広州に二つの樹脂コンパウンド工場を設立しました。

彼曰く、「お金をいくら持っていても、金に仕事をさせないと駄目ですよ。」との由。

しかし高品質品の自動車用需要の拡大は遅く、一般品は、中国メーカーとの価格競争に晒され、苦戦を余儀なくされました。その後、蘇州工場は、東レが買取しました。広州工場は撤退したとの由。

「順風満帆」

しかし、彼の事業家意欲は衰えることを知らず、二〇〇七年十二月「高福化学ＫａｏＦｕ Ｃｈｅｍｉｃａｌ Ｃｏｒｐｏｒａｔｉｏｎ」―一九七八年設立のＰＳ樹脂生産会社十万ﾄﾝ／年の会社―を出光から買い取り、堂々たるメーカーの董事長となりました。

その頃、東レは、国際環境変化の背景を捉えて、光学用フィルム事業で高雄に進出計画中でした。この投資の周旋の中心は、彼でした。彼の持ち前の積極性で、台湾政府、高雄当局との折衝及び重要顧客「奇美」などとの友好関係構築のお手伝いを頂き、事業進出を決定しました。

実に、東レは、中国 周恩来から一九七〇年に出された、所謂「周四原則」＊ に沿い、当時 台湾の合弁会社 新光合繊から派遣役員の引揚、新規投資の自粛。遠東紡から出資資本の減額などの方針を決定。それ以来、約四〇年ぶりの台湾進出でした。

「最後的聚餐」

二〇〇九年、私はシンガポールから日本に帰国。その後、二〇一〇年台湾に出張した時には、お酒を控えているとのことで、夜の会食は出来ないので、彼のメンバーズクラブのレストランで昼食に「紅焼魚翅（フカひれ姿煮）」をご馳走になりました。これが彼との最後の会食になるとは思ってもいませんでした。

「善人薄命」

しかし、この間、彼の身体は、既に「すい臓ガン」に蝕まれておりました。

日本での高度手術を行ったと伺ったが、程なく、二〇一一年に入り訃報が舞い込みました。

丁度、東レの台湾フィルム工場竣工式前、享年五〇歳（何と満五〇歳まであと

一日という若さで）で逝去されました。

彼の人生は、「進取の精神」に満ち溢れ、「久遠の理想」を追い求めたもので、早稲田大学の校歌に謳われた歌詞の通りでした。彼は、早稲田大学理工学部卒の校友です。

台湾のことを思い出すたびに、彼の笑顔と高雄での会食とゴルフことを思い出します。

もし彼が早慶ゴルフ対抗戦に参加していれば、勝敗は拮抗し、熱戦が繰り広げられたのではないかとも夢想します。

私は、台湾に赴任し、彼のような人と知り合いになったことが、幸福であり、財産でありました。彼のご冥福を心からお祈りしたいと思います。

以上

大蒼企業股份有限公司

DAH TSAAG CORPORATION

ADD:高雄市新興區新興路 30 號
NO.30, HSIN SHIN RD., KAOHSIUNG TAIWAN
TEL: +886-7-215-3127　FAX: +886-7-215-0157

Dear Sirs,

**Announcement of President Tai Jung Chieh's death**

Mr. Tai Jung Chieh 50 years old

We feel deeply regret to report the death of president Tai Jung Chieh passed away on AM 19 of Feb.2011 with his family all around by his side in Pingtung.

Mr. Tai Jung Chieh was born in 1962 Kaohsiung.
He graduated from Japan Waseda University, where he developed a global perspective from his time of study.

He could accomplish anything he set his mind to do.
At a very young age, he built Dah Tsaag Corporation and bought KaoFu Chemical Corporation in 2007.

His final days were spent surrounded by family and his whole life was short yet very memorable.
And he will be deeply missed by his family, friends and employees.

The funeral ceremony will be held on Saturday Mar.5 at Tesheng church(德生教會).
Address: 3F No.54, Desheng St., Xinxing Dist., Kaohsiung City 800, Taiwan
(高雄市新興區德生街 54 號 3F)
Date: 05 Mar., 2011 10:00AM

Yours sincerely
Dah Tsaag Corporation

〈参考〉

「周四原則」とは、中華人民共和国は、次に該当する企業との取引を拒否すると宣言。

1. 中華民国と韓国を援助する企業
2. 中華民国及び韓国に投資を行っている企業
3. アメリカのベトナム戦争政策を援助する目的で兵器・弾薬などの軍事物資を供給している企業
4. アメリカ企業の子会社及び合弁会社

当時、東レは、中国向けに繊維製品などを輸出。この中国への影響を懸念。

東レは、一九九四年に中国南通に繊維拠点を設立するまで、約二十年間中国、台湾に新規投資はしなかった。

また、台湾では、東レの名称も二〇〇九年まで表示せず、「東馨」という名称で販売・マーケティングの内国法人で行ってきた。

現在、「東レインターナショナル台北」と名称変更。なお、「台湾」「中華民国」の名称は使っていない。

執筆者紹介：一九五一年四月十八日生。
一九七四年　慶應義塾大学文学部社会学専攻卒業。　東レ㈱入社。
二〇〇一年六月　東レ現地企業　「東馨」副総経理（営業担当）
二〇〇四年六月　東レシンガポール代表兼東レシンガポール社長
二〇〇九年　七月　東レインターナショナル　理事　機材部長
二〇一四年　四月　同社　退職。
二〇一四年　五月　独立行政法人　中小企業基盤整備機構　シニアアドバイザー（国際化支援）

三台会について：台湾三田会の参加されていた台湾駐在OBを中心に、台湾に興味のある慶應義塾大学卒業生（塾員）がメンバー。現在会員は約六〇名。三台会の名前の由来は、台湾駐在時に、飯沼さんが台湾三田会日本人会長をされていた時に、開始した月一回の会食会から「三」に纏わることから来て言います。台湾三田会は、毎月第三週水曜日（星期三）に「三板橋」という場所で会食しようということになりました。（四つの三ですが）

日本では、二〇〇八年十一月七日に高雄の陳田柏台湾三田会会長が慶應義塾大学創立百五十周年記念式典参加の為に来日。その時、飯沼さんが台湾OBを集め、歓迎会を開催。それが最初の集まり。当初、仮称「台湾三田会日本支部」でスタートしましたが、名称が長いこともあり、「三田会」の台湾OBの集まりの意味を含めて、私の提案で会員の賛同を得て「三台会」と決まりました。「三台会」という名称が確立されてから運営が一層スムーズに運ぶようになった気がします。

日台稲門会に比較して、大変若く、漸く六年になります。これからもよろしくお願いします。

以上

2003年9月15日宜蘭で行われた世界大学ボート競技での応援　　和田・飯沼さんご夫妻・卓慧文さん

## 第八回早慶ゴルフ対抗戦結果報告
### 早稲田、力及ばず！
（対戦成績　早稲田二勝六敗）

日時：十月十一日（金）
会場：習志野カントリークラブ クイーンコース

当初は天候が危ぶまれていましたが、明けて見れば絶好の秋晴れの中、第八回早慶ゴルフ対抗戦が、習志野カントリークラブで開催されました。今回は、両校とも関西からの参加者もあり、早稲田七名、慶応七名の参加の下、熱い戦いが繰り広げられました。

結果は、早稲田が個人戦は（新ペリア）、ワンツーフィニッシュを果たしたものの、団体戦は残念ながら、慶応の勝利となりました。

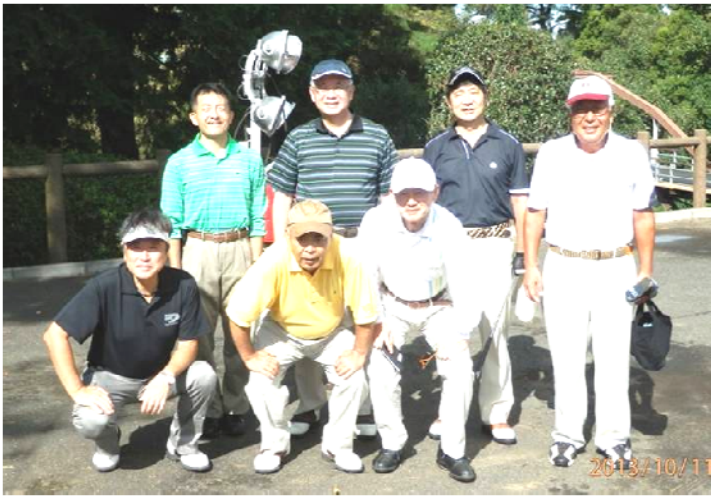
懇親会は千葉ニュータウン駅前の居酒屋に場所を移し、両校で多いに盛り上がり、懇親を深めました。

早稲田チームは、捲土重来、次回こそは再起をはかろうと決意を新たにしました。

我こそはと思う早稲田メンバーの方、是非とも次会の早慶ゴルフ対抗戦にご参加ください。（寺田　記）

成績：団体戦優勝　慶應義塾
個人戦　優勝：濱田（早稲田）、準優勝：高橋（早稲田）、第三位：和田（慶応）

【参考】ニアピン：岩永（早稲田）、井下田（慶応）、金光（慶応）、和田（慶応）　ドラコン：岩永（早稲田）、寺田（早稲田）




| 早稲田 | | 慶應義塾 | |
|---|---|---|---|
| 選手名 | グロス | 選手名 | グロス |
| 岩永 | 87 | 金光 | 87 |
| 濱田 | 95 | 井下田 | 88 |
| 高橋 | 97 | 和田 | 94 |
| 神田 | 99 | 宗澤 | 95 |
| 輿石 | 101 | 飯沼 | 98 |
| 合計 | 479 | 合計 | 462 |
| +17 | | | |

## 第九回早慶ゴルフ対抗戦結果報告
### 早稲田、優勝！
（対戦成績　早稲田三勝六敗）

日時：五月九日（金）
会場：習志野カントリークラブ キングコース

新緑の緑が美しい中、第九回早慶ゴルフ対抗戦が、恒例の習志野カントリークラブで開催されました。今回の決戦のコースは、白ティーからでも六七〇〇ヤードと距離も長い、キングコース。参加者は、早稲田六名、慶応五名。

写真の通り、開始時点では晴天でしたが、突然の大雨、雷によるプレー中断があるなど厳しいコンディションの中、両校による戦いが繰り広げられました。大部分のホールがグリーンの周りには深いバンカーが配置され且つグリーン奥はOBゾーンとなる等、難コースである上に、激しい風雨の影響もあり、スコアメイクに苦戦し、各選手は通常時のスコアより大きく落とす結果となりました。

このような厳しいコンディションの中、早稲田の精鋭選手は最後まで戦い抜き、久しぶりの勝利を勝ち取りました。

我こそはと思う早稲田メンバーの方、是非とも次回の早慶ゴルフ対抗戦にご参加ください。（寺田　記）

成績：団体戦優勝　早稲田
個人戦　優勝：宗澤（慶応）、準優勝：寺田（早稲田）、第三位：岩永（早稲田）

【参考】ニアピン：圓本（慶応）、和田（慶応）、寺田（早稲田）

| 早稲田 | | 慶應義塾 | |
|---|---|---|---|
| 選手名 | グロス | 選手名 | グロス |
| 岩永 | 101 | 宗澤 | 96 |
| 濱田 | 107 | 和田 | 105 |
| 神田 | 108 | 飯沼 | 109 |
| 高橋 | 112 | 圓本 | 121 |
| 合計 | 428 | 合計 | 431 |
| -3 | | | |

# 岩永台湾講座生台湾研修
## 二〇一四年三月

## 台湾研修を経て

早稲田大学商学部三年　田中　隆平

岩永先生の引率のもと十五人の学生で三月二日より六日間にわたり台湾へ訪問しました。学生は、私のように台湾について詳しくない者から、一年間岩永先生の授業を受講し台湾のことについてある程度の知識を持ち研修に臨む者、台湾に今年の秋に留学予定の者、就活中のためエントリーシートをもって参加する先輩方もいるなど様々でした。研修は、中正記念堂、総統府、二二八記念館などの市内観光のあと、三三会・江丙坤会長の訪問から本格的に始まりました。その後も台湾の政治、外交、経済の要人の方々とお会いすることができ、台湾を様々な観点から見ることができました。また、民間企業では、ソニー台湾や、先生が設立に携わられた台湾車輛を訪問しました。台湾車輛は先生が情熱を傾け設立に至ったこともあり、社員の方々に心のこもった対応をいただきました。当日は台北では珍しく寒い日で、ある学生が半袖姿で震えていると、制服をいただくなど温かいもてなしをいただきました。また感動的な場面もありました。三日目の午後には、台湾大学の学生と討論会を行い、「台湾は独立するべきか、統一するべきか」をテーマに討論をしました。討論後は夕食を共にし、より一層の交流を深めました。個人的な話にはなりますが、討論会で知り合った林彦延さんとは現在でも交流があり、つい先日も「学生による立法院占拠」について話し合うことができました。

やはり最も印象に残ったのは李登輝・元総統との面会だと思います。総統はご高齢にもかかわらず私たちに時間を割いてくださいました。安倍政権の外交姿勢に対する総統のご見解や、Gゼロ社会になっていくこと、「国破れて山河あり」という故事を踏まえて日本人としての生き方などを教えていただきました。

台湾研修において、私は、日台関係はもちろん、台湾の政治、経済、科学、歴史をなどあらゆることを考えました。そのいずれにおいても大事なことは「信頼関係」なのではないかと思います。このことは、岩永先生が講義・研修中に教えてくださったことでもあります。訪問したすべての方が日台の信頼関係を築いてくださった方ですし、かかる方々にお会いできるのも、岩永先生が築いた信頼関係の賜物だと感じました。偉大なる先輩方に尊敬の念を持つとともに、これからの日台関係を作っていく私たちは台湾の方と信頼関係を作っていかなければならないと思っています。

最後に感謝の意を述べたい方が三人いらっしゃいます。

はじめに、台湾研修に同行してくださった台湾人の邱妗榆さん（国立台湾大学より早大政治経済学部への留学生）と王俊現さん（早大国際教養学部四年生）です。彼らは台湾のことを第三外国語である日本語で熱心に私たちに伝えてくれました。彼らのおかげで台湾の人が身近に感じることができ、台湾の人の思いをより深く理解することができたと思います。交流していく中で、彼らが台湾人としてのアイデンティティーを強く持っていることを感じました。本当に感謝しています。

そして、最後にもちろん岩永先生です。今回の研修が実現したのはすべて岩永先生のおかげです。本来、学生の立場ではありえないこと経験することができました。先生には、日台関係の重要性や台湾の魅力のほかに、社会人として、大人として生きていくにあたって大切なことを教えていただきました。先生の期待通りの活躍を台湾で学生はできたかどうかは分かりませんが、台湾研修の経験を踏まえて、学生はそれぞれの道を懸命に歩んでいます。本当にありがとうございます。

| 2014年3月 | 早稲田大学 | 岩永ゼミ台湾研修 |
|---|---|---|
| 日 | 時 | 訪問先 |
| 2013/3/2(日) | 13:15 集合 | 成田空港第二ターミナル(スカイツアカウンター前) |
| | 15:15 成田発 | CX－451 台北桃園 18:30 |
| | | |
| 3日(月) | 8:30 | ホテル発 |
| | 市内観光 | 故宮博物院・忠烈祠・101・龍山寺・中正記念堂 |
| | 昼食 | |
| | 17:00～ 夕食 | 三三会 江丙坤会長・黄章富秘書長 |
| | | |
| 4日(火) | 8:45 | ホテル発 |
| | 9:00～10:00 | 総統府 |
| | 10:30～12:00 | 228記念館("台湾人生"蕭錦文氏案内) |
| | 昼食 | |
| | 14:00～15:30 | 亜東関係協会 李嘉進会長 |
| | 16:00～ | 台湾大学討論会 |
| | 夕食 | 台湾大学懇親会 |
| | | |
| 5日(水) | 8:30 | ホテル発 |
| | 10:00 | 新竹科学園区(陳聯泰ITRI国際センター長) |
| | 昼食 | 工業技術研究院内の「八分飽」餐廳 |
| | 15:00 | 台湾車輛(黄董事長・陳成雄総経理) |
| | 19:00以降 | Free |
| | | |
| 6日(木) | 8:30 | ホテル発 |
| | 9:00～10:30 | ソニー台湾(荒牧社長) |
| | 10:45～12:15 | 交流協会(岡田部長) |
| | 昼食 | |
| | 15:00～17:30 | 李登輝元総統 |
| | 夕食 19:00 | 台北稲門会(紹香園 長春路147號之3) |
| | | |
| 7日(金) | 10:00? | ホテル発 |
| | 台北桃園 12:50 | CX-450 成田 16:50 帰国 |

李登輝元総統との集合写真

岩永会長と三三会・江丙坤会長

討論会後の集合写真

## 書籍紹介

### 「語られなかった戦後日本外交史」

池井　優　著（慶應義塾大学出版会）

四月十八日の慶早交流会で昼は三田・綱町球場やキャンパスのご案内、夜はご講演をお願いした池井優・慶應義塾名誉教授による著作。交流会当日本書を紹介され、早速購入申込をさせて頂いた次第です。目次を繰って興味のある個所から読み始めましたのでまだ読了に至っておりませんが、戦後史は結構知らなかったことが多く、目から鱗の感がありました。

殊に日中国交回復や蔣介石総統逝去の弔問外交などの件を読むにつれ、日本と二つの中国との歴史観をも巻き込んだ諸問題は現在も進行中の課題であり、日台友好の推進はその意味でも必須であるとの感を強くしました。

戦後史については何が起きてどうなったかの結果についての知識は報道等で得ていますが、その原因やプロセスまで思いが至らなかったことを反省しました。

略歴：いけい　まさる　昭和十年一月生まれ。三四年慶應義塾大学法学部政治学科卒業。六四年コロンビア大学留学、六六年法学部大学院博士課程修了を経て、七二年法学部教授に就任。九四年法学博士。〇〇年名誉教授。七三年コロンビア大学客員准教授（七四年まで）、八一年ミシガン大学客員教授（八二年まで）、〇一年青山学院大学国際政経学部教授（〇三年まで）、現在、東洋英和女学院非常勤講師、日本国際政治学会幹事、日本スポーツ学界代表理事

主要著作：「白球太平洋を渡る――日米野球交流史」、「大リーグへの招待」、「決断と誤断――歴史に学ぶ国際交渉」、「野球と日本人」、「三訂日本外交史概説」、「オリンピックの政治学」、「駐日アメリカ大使」、「一瞬に懸けたアスリートたち――スポーツ名語録」他多数。

### 「近くて近い台湾と日本」

日台交流川柳句集

江畑　哲男　台湾川柳会　編

（新葉館出版）

五月二十四日に開催された「日本李登輝友の会　第十八回台湾セミナー」（講師・江畑哲男氏）に参加した折頂いた本です。故・呉建堂氏が主催した台湾歌壇（現代表は蔡焜燦氏）の「台湾万葉集」の流れで参加しましたが、一種のカルチャーショックがありました。

世界一イジメ甲斐あるクニ日本

李琢玉（李琻璋）

編者の江畑哲男氏は高校教師在職中から東葛川柳会代表を務め、その活動が五月二十三日付日経朝刊文化欄でも紹介されました。昭和五十年教育学部卒業の校友であります。（この欄文責　齋藤　晃）

## 新会員・会友紹介

前回総会以降入会された会員・会友の皆さんを紹介します。台湾をこよなく愛するかたがたです。また学生会員・会友の入会が増えています。

**【新　会　員】**

**川畑　賢祐**　さん
平成十六年第一文学部卒業

**川村　由紀**　さん
平成五年商学部卒業　入会動機：二〇一〇年四月～一三年一月まで約二年十カ月台北に駐在し台北稲門会に参加させていただきました。台湾に愛着があり、台湾との関わりを大切にしたいと考えて行きたいと考えているため。

**鈴木　進一**　さん
平成十七年政治経済部経済卒業　入会動機：かねてより金美齢先生の大ファンで金美齢事務所の主催されている美齢塾の塾生でもあります。日本と台湾の友情を更に深めていくため私も参加させていただきたい、またそのために必要なことを学ばせていただきたい。

**辰巳　一仁**　さん
平成九年法学部卒業

**安本　恵**　さん
平成十七年政治経済部経済卒業　入会動機：かねてより金美齢先生の大ファンで金美齢事務所の主催されている美齢塾の塾生でもあります。日本と台湾の友情を更に深めていくため私も参加させていただきたい、またそのために必要なことを学ばせていただきたい。

**劉　龍也**　さん
国際関係博士コース

**【新　会　友】**

**大湾　嵩士**　さん

また大変残念ではありますが、次のかたがたが退会されました。長い間お世話になりました。

**【退会会員・会友】**

國方　隆さん、坂井　勝さん、佐藤　喬さん、塚本　正樹さん、新田　浩司さん

## ホームページのリニューアルとニュースレターの休刊について

この度寺田幹事のご苦労により、当会ホームページがリニューアルされ、とても親しみ易い構成となりました。是非アクセス頂き、お気に入りに登録をお願いします。

またこれを機にニュースレターを休刊といたします。と申しますのも、ニュースレターは当会活動の予定・結果報告を迅速にお伝えすることを目的に発刊しておりましたが、ＩＴ化がこれだけ進むとホームページには到底敵わず、発行時にはその内容が既に陳腐化していたことがままありました。

つきましては今後は新生ホームページに逐次情報を更新して掲載いたしますので、よろしくお願い申し上げます。代々ニューレター発行にご尽力頂いた先輩方、また愛読者の会員・会友の皆様に謹んでご案内申しあげます。

なお、当会ホームページは次のルールに則って運営いたします。

**日台稲門会ホームページ　ネチケット**
（ネットワーク・エチケット）

日台稲門会ホームページには、以下の内容の記事等は掲載しません。

① 公序良俗に反する内容
② 虚偽、または表現が不適切で誤解される恐れがある内容
③ 法令に違反する、または違反する恐れのある内容
④ 個人の自己宣伝、政治的信条、またはそれに類する内容
⑤ 商業活動、政治活動、宗教活動、またはそれに類する内容
⑥ 会員・会友、または第三者、もしくは当会に損害、または不利益を与える内容
⑦ その他当会が妥当でないと判断した内容

**《年会費のお支払いについて》**

平成二十六年度年会費につきましては、左記口座にお振込みいただきますよう、よろしくお願いいたします。なお未納会費につきましてもよろしくお願いいたします。

●銀行振り込みの場合
三井住友銀行（銀行コード０００９）
上大岡支店（店番５６６）
口座番号：普通預金　６９２９０９５
口座名義：日台稲門会
（ニチタイトウモンカイナカジマ）

●郵便局振り込みの場合
加入者名：日台稲門会
口座番号：００１３０－８－６９８０５
＊銀行または郵便局の払込金受領書をもって領収書に代えさせていただきます。当会発行の領収書がご入用の場合は、振込取扱票の通信欄にその旨ご記入ください。

台北稲門会新幹部案内　会長 島一範（ＡＮＡ）　副会長 島田達二（中外）

## 編集後記

慶早交流会での池井先生のお話はとても興味深いものでした。第一回硬式野球早慶定期戦（明治三十六年）が行われた三田・綱町球場見学は所用により断念しましたが、講話「校歌応援歌ものがたり」では「都の西北」（明治四〇年）、「若き血」（昭和二年）、「紺碧の空」（昭和六年）の誕生秘話を説明頂き、また作曲の古関裕而や堀内敬三の逸話にも触れ、講義とは違い感慨深いものがありました。なお慶應義塾塾歌（昭和十六年）は池井先生によれば、応援歌としては間延びしていて向かない、との御説でしたが、六月一日の神宮ではしっかり聴きました。

両校の応援合戦過熱が原因で明治三十九年の第二戦終了後以降早慶戦は長い空白期間に入ったのですが、その影響は硬式野球以外の総ての競技に及びました。また、早・慶・明・法・立よるリーグ発足後も早慶戦だけは組まれなかったという徹底ぶり。大正十四年に東京帝大が加盟した東京六大学が創設されるに至って、漸く十九年ぶりに復活しました。なお、早稲田監督・飛田穂洲（水戸中）は同年の六大学秋季リーグ戦優勝、ならびに来日したシカゴ大学戦雪辱を機に勇退しましたが（「熱球三〇年」）、嘉義農林を甲子園初出場ながら決勝まで導いた近藤兵太郎（松山商業）は年齢から言えば穂洲の野球部二年後輩、やはり交流はあったのでしょうか。（編集子）

WASEDA U 2014　祝・日台稲門会会報第１７号発行

早稲田大学政治経済学部　講師
早稲田大学台湾研究所　招聘研究員
Wisdom Marine Line Co. Ltd　独立取締役
**岩永康久**
〒276-0049 千葉県八千代市緑が丘三丁目八-九
電話 047(450)0901
Email : yaiwanaga@y7.dion.ne.jp

**小野間恒夫**
神奈川県茅ヶ崎市南湖五-一五-五
電話・FAX0467(83)2611

株式会社大和総研
総務部 次長
**川村淳一**
〒135-8460 東京都江東区冬木一五-六
電話03(5620)5083(直通)
Email : junichi.kawamura@dir.co.jp

株式会社Gyao
**川村由紀**
Email :
yukikawa@yahoo-corp.jp

日台稲門会　幹事
**神田正治**
Email :
kanda0386@star.ocn. ne.jp

早稲田大学校友会
日台稲門会　幹事
**北川原宣夫**
E-mail:
kitagawaraj@ybb.ne.jp

日台稲門会　幹事
**北村友雄**
〒231-0023 横浜市中区山下町九八番地
GSハイム山下町　五一六
電話045(681)7605
Email:kiamuratomoo@jcom.home.ne.jp

**輿石邦豊**
〒152-0002 東京都目黒区
目黒本町二-一九-七
電話・FAX03(3710)1669
携帯080(1137)4457
Email : kn.koshishi@wing.ocn.ne.jp

㈱共同紙販ホールディングス
日台稲門会・稲門乗馬会
稲門体育会代表委員
**齋藤晃**
Email : akirastj54@gmail.com

日台稲門会　幹事長
**高橋徹**
Email:
torutaka20@hotmail.com

フランシス・インター・リミテッド
**陳恵珍**
〒164-0013 東京都中野区弥生町
二-三十一-十八　蒼苑ビル
http://www.msfrances.com
Email : chen@msfrances.com

日台稲門会　幹事
**寺田修**
Email :
osamu.tera989@gmail.com

日台稲門会　幹事
中島淳　税理士事務所
**中島淳**
渋谷区代々木二-二二-五
カテリーナ代々木二〇一
Email : taxnakajima@gmail.com

日台稲門会　幹事
**萩原伸一**
Email :
shin_hagiwara50@yahoo.co.jp

真鍋藤正税理士事務所
高座日台交流の会　副会長
日台稲門会　監査役
**真鍋藤正**
神奈川県大和市中央五-十三-五
電話046(264)3050

日台稲門会
副幹事長 兼 事務局長
**三村達**
〒100-8088 東京都千代田区大手町
一丁目四番二号　丸紅ビル
電話03(3282)7591
E-mail ; nittaitomon@gmail.com

華隆機器工廠有限公司
董事長
**廖朝欽**
廠址
台中市豊原市圓環北路二段三五九號
電話04(522)38885

早稲田大学校友会
日台稲門会
**渡邊光治**
千葉県市川市福栄四-一七-七
電話047(396)2196

日台稲門会　幹事
**渡邊義典**
〒204-0021 東京都清瀬市
元町二―二六―二五
E-mail:
watanabe.yoshinori9@mbr.nifty.com

**早稲田大学台湾研究所**
〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町五三一
早稲田大学研究開発センター120-1号館401号室
電話03(5272)6192(内線3010)
FAX03(3208)8530
E-mail:xxchiang@waseda.jp